

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 3 号を発表したので送付します。

令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 3 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ、イネヨトウ)
- 3 発生地域 久米島

4 注意報発令の根拠

令和 8 年 6 月 4 日に久米島において株出しほ場 10 地点で芯枯茎調査を実施した結果、芯枯茎率は 11.8% であった。この値は、国が定める発生予察調査実施基準における発生程度別基準では「多」に該当する値であった。また、発生ほ場率は 100% で、一部ほ場では坪枯れの発生も確認された (図 1)。芯枯茎の切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫はカンシャシクイハマキ 60%、イネヨトウ 40% であった。



図 1 ほ場の芯枯れの発生状況

5 発生生態および被害

(1) メイチュウ類共通

- a 被害ほ場およびイネ科雑草が発生源となり、ほ場に侵入する。
- b ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れ (図 2) を起こす。

(2) カンシャシクイハマキ (図 3)

- a 沖縄では年 6～7 世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉や茎に 1～数卵ずつ産み付けられ、1 雌当たりの生涯産卵数は 200～500 卵に達する。
- c 被害はほ場内に散在的に発生する。

(3) イネヨトウ (図4)

- a 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。
- c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
 - (2) 培土時に土壌害虫の防除もあわせた薬剤(粒剤)を施用する。
 - (3) 茎葉への水和剤等の散布は、葉鞘内に薬液が十分に行き届くように丁寧に散布する。MEP単独成分の剤は感受性低下の報告があるため、他の剤を中心に散布する。
 - (4) 薬剤防除後、2～3週間において再度防除を行うことで防除効果が高まる。
 - (5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。
- ※農薬の使用にあたっては、ラベルをよく読み、登録内容を確認して正しく使用する。



図2 芯枯茎



図3 カンシャシクイハマキ幼虫



図4 イネヨトウ幼虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

